

日刊 發行部編輯人 川崎文治 本社下町番地(電話六三〇番) 常設部編輯人 川崎文治



定額 一紙五錢 一月一元二角 三月三元五角 半年六元 一年十二元 郵費在內 零售每份五錢 廣告費 第一版每行一日五錢 第二版每行一日三錢 第三版每行一日二錢 第四版每行一日一錢 長期廣告另議 電話六三〇番

十一月十日夕刊

常 警 論 壇
景氣の根柢 (3)
 經濟學博士 太田正孝氏述
 人の道、人道主義、廣い意味の道徳であります。經濟と道徳と云ふことの交渉は常に起る問題でありまして人生と云ふものは最後に於て此の問題に就て考へなければならぬ。人はパンのみに依つて生きるものではない。併しパンなくとも生きるものではない。孔子は「朝聞道夕死可矣」と申して居ります。朝に道を聞かないからお互晝色々の仕事を居るのであります。道を知ると云ふ事の

爲に人間は生きてゐる。お互に暑い所を働いて居るの、道を知ると云ふことにはあらうと思ひます。其の道を知るに就ても或は貧乏の手續もなければ知る術もない。道を知るそれが人生の第一の目的であらうと思ひます。それと經濟の目的と云ふものはちつとも違はないのであります。人間はパンのみに依つて生きて行けるものではない。パンのみどころぢやない。衣食足つて禮節を知る。乞食に禮なしであります。道を知る爲にお互一生をウツク

揃ひました!
 いろいろ冬の洋服が
 値段は二割乃至一割安
 立襟上下 拾圓位ヨリ
 脊廣三組 三圓半位ヨリ
 オーバ 六・七圓位ヨリ
 其他變つたいろいろ冬の
 洋服が澤山揃ひました
なかや洋服店
 平町二丁目(電二〇三)
**看護婦派
の求めに應ず**
平看護婦會
 電話三〇七番

満人期待の名篇ハみ公表
 ◇尾上紋十郎・松本三郎
 中村小福合同力演
 帝キネ秋季三大名映畫中の
 超優作品
黒田騒動 十六卷
 全部公開
 マキノ片岡千恵藏大快演、
 鈴木澄子・市川小文治
 第三篇 **萬花地獄**
 關中よりの邪繩の投げ主は
 何人か?
 ◇マキノ特作現代劇
 ◇梅島昇・東愛子共演
 三上於菟吉氏作
炎の空
 東京日大毎日連載
マキノ有聲座
 帝キネ
 本秋流行の粹を網羅せる
 一、モスリル陳列會
 何卒御覽下さい
三井吳服店
 電話三十八番
 電話七百五十一番

内小兒科
 花柳病科
 (需應院入)
藤沼醫院
 平町紺屋町
 電話五〇七番

夜良く寝れぬ人
 老衰を嘆く人
 記憶減退の人
 性力弱き人
脳と生殖器の薬
エキスピ
 特約店 平町田町
守美藥局
 電話五五一番

外科 専門
上田外科醫院
 入院應需
 平町南町
 電話一二九番

原齒科醫院
 平町土橋通り電話三一三番

高久病院
 院長 醫學士 高久忠
 副院長 新潟醫學士 赤羽清
 藥局長 藥劑師 佐竹菊雄
 平町田町 電話五二一三番

横森博士の推奨せる
養命酒
 其偉効眞に神の如く
 定價……一圓五十錢、二圓
 平町五丁目角 **山野邊藥局**

お座敷天ぶら
 を始めました。どうぞ御越しの上一度御
 ためしの程只管御願申上げます
 大蒲焼 大和家
 南町(電話十四番)

名特 入提 手供 拭
吉田屋 染工場
 福島縣平町五丁目
 (電話五五八番)
 (振替仙台五三三八番)
 徒弟入用 一三四歳位ノ者四五名

買好店 良価ヲ安ク
クースーリ
 關内菜舖 藥劑師 關内栄助
 電話四〇番

學校増築案の

反対は是か非か

児童收容難かんと和の 重大なる問題起る

平第一、第二の兩小學校が、校の敷地や建物を拂下げて、學齡児童増加と共に益々狭くなり年々児童の收容難を加へつつあるは事新らしい問題でなく、町當局は是れを緩和する爲め頭痛鉢巻であつたが既記の如く約三萬圓の工費を投じて兩小學校を増築し舊校舍に收容中の児童を夫々兩校に復歸せしめガラ空きになつた舊中舊校舍には商業學校を移轉せしめ不要に歸した商業

第三校の新築は

増築の後に實現

學校側及び町當局の計劃案 特別教室の完備

増築が緊急であると主張する學校側及び町當局の計劃は左記の主張に基くものである。平町の第一、第二兩小學校は數年前から狹隘に失すると云ふので一時假りに舊中學校舎を以つて第一第二兩小學校の不足教室を補充し來つたのであるが年々

増加する児童は舊中學校舎にも收容することが出来ない状態となり且つ舊中學校舎は狹隘な教室が多く且つ今日の如く本校と分離して教育するは教授上不便が尠くない。此際本校を増築すると同時に第三小學校の新設を計畫するこ

室の外特別教室の

必要で ある事は申

す迄もない、而して特別教室には唱歌室、手工室、理化室、圖書室、器機標本室、衛生室等其他多々あるのであるが、將來平町としては少くとも唱歌、手工理化、器機標本の諸室の設備を必要とする、故に

廿一の 室數にては

最小限度の特別室三、普通教室十八として使用するの外なく、現在の校舍の儘であるならば十八學級の學校とするを最も適當とする、而して學校の經費は學級數をより以上多くするは經濟であるから更に六學級を増加し廿四學級として經營する方が

得策で ある、此故

に第一校の増築案としては最北の一棟に二階を新築して八教室を増加し相當の特別教室を備へ廿四學級として教育するは最も有利なる方法と信する、更に第二校に於ける本年度の學級數は尋常廿五、高等五、計卅學級にして其の教室としては本校舎廿一、

舊中學

校舍九とを充當して居る、現在特別教室として裁縫室、家事室を有すれども其の他唱歌室、理化室、器機標本室等の必要は第一小學校に同じである、今此校を廿四學級として經營するには前案同様最北部の校舍に二階を新築して六教室を

増築す るに在る、

而して兩校二階増築後と雖も現在の児童全部を收容し得ない爲め昭和四年迄は大部分の特別室を設けないで普通教室に使用し且舊中學校舎の一部をも使用を繼續し昭和五年度に於て別に第三小學校を設け兩校四十八學級以外の児童を收容することとなる

要する に現在の校

舎其儘ならば各十八學級として經營するは理想とすべし之れは經濟上許さざる事である爲め兩校に前記の如く二階を増築し各廿四學級として經營することは児童收容上、管理統一上、又經濟上等より見て平町小學校永遠の計畫として最も適當な方法である事を疑はないと云ふにある

新築が肝腎

大森町議語る

増築先決案に反対を唱ふる大森町議の意見は左記の如くである

『古建物の上に二階を上げる事は甚だ危険が多く是れが爲めに若し萬一の事があつたら何んとする、夫れに増築案を是とするとしても昭和五年度には是非第三小學校を建設せねば児童收容の完備を期する事が出来ないとの事である、然らば此經費多端の折柄三萬圓の金を懸ける迄もなく寧ろ一時の困難を忍んでも新築を先に財源を起債に求

最適の

收容難緩和

町當局の意見

町當局は平町の教育機關の完備を期する爲め増築先決案が最適であるとして左記の如く語る

『二階建を増築する事に就いては縣廳の技術者にも實地調査をして貰つた後に危険なしとの確信を得たものであつて決して心配はないまた第三小學校を建設するとすれば町の平垣部を敷地に選む必要がある、然りとすれば今直ちに敷地を物色すると雖も是れが決定迄には種々な難問があつて容易でない事は火を見るよりも明らかである、然るに一方第一第二の兩校及び平垣部の收容難は燒眉の急を告げて居る、若し第三校の敷地が決定せず、新築が延引する様な事があつたならば教育設備の上に容易ならざる事態を醸す事となる、故に先づ第一、第二の兩校を増築し平垣部を舊校舍に移して一時的收容難の緩和を圖り其内に相當の敷地を卜して第三校を平垣部に建設する事にすれば極めて圓滑に教育機關の完備を果す事が出来るのである』

秋刀魚漁漸く色めき

一日八車位宛各市場へ輸送

磐城各濱の秋刀魚漁は本年は極めて不漁の爲め之れまで各濱の景氣を引立たしむるに至らなかつたが昨今漸く豊漁となり江名小名濱等は毎日十萬尾内外の漁獲を見て泉驛から各市場へ輸送するものも八車位に及んでゐるが本年は一日八車の發送が最高で昨年の最高一日十八車に比し半數にも満たざる有様なれば各家庭の食膳へ上るものも大して安へるものは食へる事が出来なからうと

酒造税完納

所得税も九割 納税成績良好

平稅務省に於ける十月末日納期の税目は酒造税及第三種所得税で前期は總額二十萬二千六百六十四圓、後期は二萬四千九百四十五圓八十五錢で合計二十二萬七千六百九圓八十五錢となり財界不振の折柄としてこの納税成績には稅務當局でも相當憂慮してゐたが、實際は案外良好で酒造税は完納となし所得税が九割九分七厘を

農村振興講習

渡邊と平窪で

納入して割合三厘が未納となつてゐるに過ぎず、尙酒造税の最高は二萬一千で最低は千二百六圓であつたと

磐中發火演習

縣立磐城小學校生徒發火演習は

十二、三の兩日湯本、鹿島玉川の各町村に於て舉行し平町南方地區に於て野砲兵第一中隊歩兵一大隊假設敵對抗演習をなし十三日午後一時終了の豫定である

忍術を應用

技手がドロ

平町田町活動寫眞技手自稱中村清(三)は同町活動寫眞

救世軍家庭會

救世軍平小隊家庭會では十日午

後七時半から同會館に於て第四回家庭團例會を開催し左記講話ある由
心霊講話、母としての神、日下少校、フランス刺繡、基本縫高橋安子姉